



Wani2

WoodyValley/パラグライダーハーネスは3年間保証付きです！！

ウッディーバレーハーネスについてカスタマー登録はがきをお送りいただいたお客様に、3年間保証をさせていただきます。

保証内容

- * 通常使用による保証期間 : 3年
- * クラッシュを含む使用状況を問わない保証期間 : 1年
(パーツ代や交換品については実費となります)

保障対象外パーツ(下記のパーツ及び部分については保証外・実費修理となります。)

- * ポッドハーネスのつま先部分(地面との摩耗部分)
- * ネオプレーンゴム部分
- * ジッパー
- * 超軽量ポッドハーネス X-Alps の頭部インフレーション部分
- * ハーネス本体以外の部品(カラビナ・プロテクション・成形用板・フットバー・座板 等)

修理に際しての往復送料については、お客様負担とさせていただきます。



flight since 1977

Sports Opa Kite

(株)スポーツオーパカイト

東京 :

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-24-15

TEL: 03-3291-0802

<http://www.opa.co.jp/>

メンテナンス部: 〒315-0101 茨城県石岡市大増 1900

〒315-0101 茨城県石岡市大増 1900

TEL: 0299-44-3642 FAX: 0299-44-3939

email: itajiki@opa.co.jp

THANK YOU !

この度はウッディバレー社の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。この取扱説明書には重要な内容が記載されていますので、よく読んでください。特に最重要の2点について御注意ください。

緊急パラシュートの装填

あなたは緊急パラシュートによって命を救われるかも知れないのです。それは2日後に起きる事もあり得るし2年後かも知れません。いざと言うときに確実に役立つように取り扱ひましょう。

ハーネスの調整

ハーネスはパラグライダーとパイロットをつなげる道具であり、フライトの楽しさと性能を最高に引き出すことのできる大切な存在です。出来の悪いハーネスでも最高の調整がなされていれば良いフライトを楽しむことが出来ます。しかしどんなに良いハーネスでも調整が悪いと飛べたものではないのです。

このハーネスによってパイロットの皆様が、快適に飛び、楽にコントロールし、性能を引き出し、フライトの喜びを存分に味わえるようになることを確信しています。取扱説明書を読むのは退屈な作業かも知れませんが、パラグライダーハーネスは身近な家電製品などとは違います。正しい使用方法を理解していただいて事故のリスクを減らしてください。この取扱説明書には、あなたのハーネスの組立、調整、飛行、収納に必要な情報が全て入っています。自分の装備について漏れのない知識を持つことによって、パイロットの安全と飛行レベルは確実に向上します。

セーフティー ノート～安全に関するお知らせ

ウッディバレー社のパラグライダー機材を購入していただくに当たって、購入者は適切なパイロット技量を認定されたパラグライダーパイロットであることを自ら認め、負傷ないし死亡を含むパラグライダー活動に伴う全ての危険性を引き受けられたものとします。ウッディバレー社のパラグライダー機材の不正確あるいは不適切な使用はこれらの危険性を高めます。いかなる場合においても、ウッディバレー社およびウッディバレー社製品取り扱い店は、ウッディバレー社のパラグライダー機材使用に関連したパイロット本人あるいは第三者の負傷、あるいはいかなるタイプの損失についても、責任を持つものではありません。ウッディバレー社のパラグライダー機材の使用に関してのお尋ねは、まずご購入先かあなたの国の輸入店までお願いいたします。

Woody Valley

危険・警告	
1)	安全に正しくお使いになるために、ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を最後までよくお読みになった上で、指示内容を守ってお使い下さい。
2)	本ハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的で使用しないでください。
3)	本ハーネスは改善等の為、予告なしに仕様・価格等を変更する場合があります。

INDEX

1ー 一般情報	4
1. 1 コンセプト	4
1. 2 プロテクションシステムと安全性	4
1. 3 SOSラベル	4
2ー ハーネス使用の前に	5
2. 1 緊急パラシュート	5
2. 1. 1 レスキューハンドルのデプロイメントバッグへの取り付け	5
2. 1. 2 緊急パラシュートのハーネスへの取り付け	5
2. 1. 3 パラシュートの容量の調節	7
2. 1. 4 緊急パラシュートの装填	7
2. 1. 5 緊急パラシュートの引き出し操作	8
2. 2 ハーネス調整	9
2. 2. 1 背中の調整	10
2. 2. 2 座板の調整	10
2. 2. 3 肩ベルトの調整	11
2. 2. 4 胸ベルトの調整	11
2. 2. 5 脚ベルトの調整	11
2. 2. 6 スタビライザー	12
2. 2. 7 スピードバー戻しバンド.....	12
3ー ワニ2での飛行	13
3. 1 プレフライトチェック	13
3. 2 ポケット	13
3. 3 キャメルバッグ	13
3. 4 水上でのフライト	14
3. 5 トーイング.....	14
3. 6 ランディング	14
4ー ハーネスの折りたたみ・パラグライダーの収納・リュックサックの使用	15
4. 1 ポケット	17
4. 2 キャメルバッグ	17
5ー 特徴とオプション装備の取り付け	18
5. 1 スピードシステムの取り付けと調整.....	18
5. 2 リラックスバー	18
5. 3 クイックリリースカラビナ.....	18
5. 4 バックプロテクション.....	19
6ー メンテナンスと修理	19
6. 1 ハーネスの廃棄.....	21
6. 2 自然環境における活動への注意.....	21
7ー テクニカルデータ	22

1 - 一般情報

この装備に含まれるのは：

- ハーネス
- ポリカーボネイト座板（前部に可動性をもたせています。）
- カラビナ 2 個
- 緊急パラシュート開傘ハンドル
- 緊急パラシュートコンテナ閉鎖用バンジーループ（予備 2 個）

オプション：

- スピードバー
- リラックスバー
- クイックカラビナ
- TUV（ドイツ技術検査協会）とCEの認証（レベル 2）を受けたバックプロテクション
（32 ページを参照ください。）

1. 1 コンセプト

ワニ 2 は、完璧な安全性の下に思いっきり楽しもうという全てのパイロットのためのリバーシブルハーネスです。荷重を受け持つベルト類の配分によって、素晴らしいパッシブセーフティーの安全性を持ちながら、フライト時の操作性を楽しむことができます。そのリュックサックは完全な新設計で、リバーシブル作業が簡単になり、荷重の配分が完璧に、そして容量が増加しました。

1. 2 プロテクションシステムと安全性

この新しいハーネスにおいても、高度の実績を持つ自己膨張型セルフインフレイティングエアバッグを採用しました。このセルフインフレイティングシステムは、スチール製スプリングを使用していますが、これはスプリング自体が衝撃を吸収するのではなく、いつでもエアバッグが衝撃を吸収できるようにエアバッグを広げておくというものです。このようにして、テイクオフで走り出す前であっても 100% の衝撃吸収力があり、リュックサックに収納する為にハーネスをたたむまで、飛行中もずっとこの状態が保たれるのです。またスプリングであるためにエアバッグの安定した形状が保たれ、いかなる湿度、気温に対しても、あるいは長期間にわたってリュックサック内に収納したままであっても、性能を維持する事が出来ます。軽量と収納時体積の小ささも、スプリングによるセルフインフレイティングシステムの 2 大長所でしょう。このシステムこそ、エアバッグとムースタイプという 2 つのプロテクションシステムの長所を併せ持つものなのです。

オプションとして、規格認証を受けたバックプロテクションがあります。これは専用のリア収納ポケットに装填されます。

ワニ 2 は、脚ベルト付け忘れ防止セーフティーシステムとして T ロックを装備し、新しく肩ベルトを張るための非柔軟素材のベルトシステムも装備しました。。

1. 3 SOS ラベル

赤字に白文字のとても目立つ SOS ラベルが、右肩ベルトのパッドのポケットに入っています。すぐに取り出せますが、脱落しないようにハーネスにつながっています。この SOS ラベルの裏側に、事故の際に救急隊員に必要と思われるパイロットの情報を記入しておくことができます。



2- ハーネス使用の前に

ワニ2は、パイロットを担当するインストラクターなどの、認証を受けているパラグライダーの専門家によって組み立てられなければなりません。特に緊急パラシュートのハーネスへの装填は、正しく行われるよう、十分な技能と注意が要求されます。適切なパラシュートの装填を受けた後にのみ、ハーネスの調整を行ってください。

2. 1 緊急パラシュート

緊急パラシュートのコンテナは座板の下のハーネスの前部にあります。このコンテナは十分な大きさを持ち、現在の市場で出されている緊急パラシュートのほとんどに対応しています。緊急パラシュートをハーネスに装填する際は、最初に緊急パラシュートのブライダルをハーネスのブライダルへ取り付けてから装填して下さい。ハーネスのブライダルは2箇所パイロットの肩の高さで接続されており、このことで開傘時の荷重配分とパイロットの着地姿勢を確実にして、着地時に負傷する可能性を最小限に減らしています。このコンテナのブライダルのパラシュート側のエンドは、コーデュラ500生地のカバーで補強された赤色の大きなループになっています。このループの端にはベルクロがついていて、緊急パラシュート側のブライダルとの結束が緩まないよう保持してくれます。

2. 1. 1 レスキューハンドルのデプロイメントバッグへの取り付け

ワニ2には、緊急パラシュート引き出し用のハンドルが付属しています。このハンドルの識別番号は6番で、そのほかのハンドルの使用は出来ません。ハンドルについている黒いループをデプロイメントバッグのループに通し、この黒いループの中にハンドル本体を通してからしっかり引き絞って、ハンドルを取り付けます。緊急パラシュートの引き出しを確実にするためには、緊急パラシュートの中心よりも引き出し口側の中心線上の位置でハンドルのループをデプロイメントバッグへ取り付けてください。もしも使用するデプロイメントバッグの取り付けループが適切な位置になかったら、緊急パラシュートをお買い求めになった販売店と相談してください。



2. 1. 2 緊急パラシュートのハーネスへの取り付け

緊急パラシュート側のブライダルをハーネス側のブライダルへ接続するには、3つの方法があります。

接続方法その1 (操縦性のないパラシュート向き)

2,400kg以上の破壊強度を持つねじロック型のカラビナ（ラピッドリンク）を使用する方法。この場合、ブライダルに対してカラビナが回って横を向かないよう、ゴムバンドを用いて、ブライダルがずれないように固定します。カラビナのねじロックはしっかりと締め、緩んできて開くことのないようにしてください。この方法は次に述べる方法よりも高い開傘ショックに耐え、最もお勧めできる接続方法です。



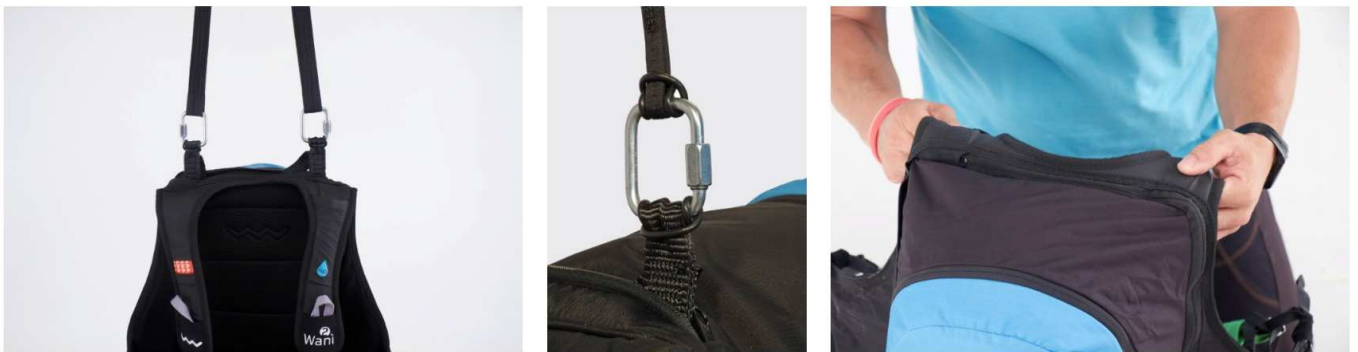
接続方法その2 （操縦性のないパラシュート向き）

まず緊急パラシュート側のブライダルの端のループの中にハーネス側のブライダルを通し、つぎに緊急パラシュート本体をこのハーネス側のブライダル端の大きなループの中にくぐらせていき、2つのブライダルを引き絞って接続する方法。開傘ショックで合成繊維製のブライダル同士で摩擦が発生して破壊しないよう、出来るだけしっかりと引き絞ってください。そのうえで、結束部が緩んでこないよう、ハーネス側のブライダルについているベルクロで結束部を縛ってください。



接続方法その3 （操縦性を有するパラシュートおよび接続点が2つある操縦性のないパラシュート向き）

もし御使用の緊急パラシュートが操縦可能なもので2本ブライダルをもっているか、いずれにしても2本ライザーブライダルを装備しているものでしたら、肩ベルトの近くにあるハーネス側のブライダルの付根にある2つのループへ接続することが出来ます。この場合、ハーネス側のブライダルは、使用しないので、折りたたんで2本のゴムバンドで縛り、パイロットの首の後ろにあるカバーの下に収納してください。



2箇所のブライダル接続にはそれぞれ1,400kg以上の破壊強度を持つねじロック型カラビナ（ラピッドリンク）を使用してください。また、緊急パラシュートのブライダルの長さが、開傘作業での緊急パラシュート引き出し時にも十分な長さを持ち、パラシュートをコンテナから引き出すさいにパラシュート本体が先にデプロイメントバッグから引き出されることがないか、をチェックすることが重要です。

重要：

横方向の異常な荷重負担を避けるため、どちらか1つのループだけでなく、ブライダルは必ず肩ベルトの2つのループへそれぞれ接続してください。



2. 1. 3 パラシュートコンテナの容量の調節

ワニ2はパラシュートコンテナの容量を調節でき、販売されている様々な緊急パラシュートの大きさに対応しています。調節にはコンテナ内部にあるジッパーを使用します。

このジッパーを完全に開いた、あるいは閉じた状態で、ジッパー両端にある小さな防護カバーの中にジッパースライダータブを注意深く入れるようにしてください。



2. 1. 4 緊急パラシュートの装填

緊急パラシュートをハーネスのコンテナへ装填するさいは、引き出しハンドルが外から見えていて、ハンドルが外側を向き、ハンドルのデプロイメントバッグへの取り付けループが上側にくるようにしてください。

まずハンドルをコンテナ上部の固定位置に止めます。ハンドル基部の左右をハーネス側のスリットへ入れてください。

後の作業が楽になるように、セーフティーピンどめ用の付属のバンジーループの中に細いヒモ（パラグライダーのボトムラインなど）を通しておきます。このヒモとバンジーループをハーネスパラシュートコンテナのフラップのハトメ穴で一番小さなもの（1番と記されたもの）に通してください。



ブライダルカバーのジッパースライダーをいったん右へ開け切ってから左へ10cm動かして部分的にジッパーを閉めて下さい。それからいろいろあるフラップを、写真の順番で閉じていってください。この作業の際にジッパーが開いてこないよう注意してください。

ハンドルについているメタルピンを、透明カバーの下のハトメ穴から引き出したバンジーループの中へ差し込みます。メタルピンが差さったら、バンジーループ引き出しに使った細ヒモをはずしますが、このときバンジーを摩擦で傷めないように注意深くゆっくりと引き抜いていってください。（ヒモをメタルピンの下側に回してから抜くと良いでしょう。）最後に、ジッパーを完全に閉じ、ジッパースライダーが左の肩ベルトの後ろのカバーの下に入っているようにしてください。



重要： 緊急パラシュートとハーネスあるいは外部取付けコンテナとの初めての組み合わせの場合は、必ず公認のハーネスあるいは緊急パラシュートのディーラー、あるいはパラグライダーインストラクターによってチェックしてもらってください。通常の飛行姿勢からの緊急パラシュートの開傘操作では、何らの支障無くスムーズに行なえなければなりません。

2. 1. 5 緊急パラシュート開傘操作

緊急時にすぐに確実にハンドルを握れるよう、普段のフライト中に定期的にパラシュートハンドルを触ってその位置を憶えておくことはとても重要です。

緊急時の開傘手順は以下の通りです。

- ・ 緊急パラシュートハンドルを見て、片手でしっかりと掴んでください。
- ・ 外側に向かってハンドルを引き、ハーネスコンテナから緊急パラシュートを引き出します。
- ・ 障害物のない空間を確認し、連続した動きで緊急パラシュートをパイロットおよびパラグライダーから離れた方向へ投げます。
- ・ 緊急パラシュートが開いたら、機体をつぶしてパラシュートに絡まないようにします。キャノピー前縁が上を向いていたら、Dライザあるいはブレークラインを掴んでパラグライダーを自分に向かって引き込んでください。もしキャノピー前縁が下を向いていたら、片方のDライザあるいはブレークラインを引いて機体を回転させて前縁が上を向いたら両方のDライザあるいはブレークラインを掴んでパラグライダーを引き込んでください。

・ 着地時には、負傷のリスクを出来るだけ減らすために、体を起こしておき、PLF（5点接地パラシュートランディングフォール）が行なえるようにします。



2. 2 ハーネス調整

ワニ2には多くの調整方法が設定されていて、最適のポジションに調整できるようになっています。この調整にはそれほど多くの時間はかかりませんが、フライト中の快適さは大きく変わってきます。

ワニ2は出荷時に標準的な体型の調整がすでに施されていますが、パイロットの身長へ対応する調整は行っておりません。そこで、初飛行の前に他の調整はそのまま高さの調整だけを行う事をお勧めします。他の調整についてはほとんどのパイロットにとって満足できるものである事がわかっています。

なお、全ての調整ベルトに赤い印が付けられていて、これら他の調整を行う際に、いつでもメーカー設定値に戻せるようになっています。

調整作業は、まず緊急パラシュートを装填してから行なってください。そして、最適の調整を得るためには、適切なシミュレーターからぶら下がり、飛行時と同じ装備・収納品を再現して飛行時と同じ条件・ポジションでチェックしてください。



- | | | |
|---------|---|------------|
| 背板調整 | ① | 2. 2. 1 参照 |
| 座板の深さ調整 | ② | 2. 2. 2 参照 |
| 肩ベルト調整 | ③ | 2. 2. 3 参照 |
| 胸ベルト調整 | ④ | 2. 2. 4 参照 |
| 脚ベルト調整 | ⑤ | 2. 2. 5 参照 |



2. 2. 1 背中調整



垂直方向に対して上体をどれだけ後へ傾けさせるかの背中角度調整は、写真でわかるとおり、片側2か所のポイントで荷重を分散させています。

ワニ2は、2つの異なる機能を使い分けられる新考案の調整バックルを使用しています。

1) 地上でも飛行中でも調整可能なフリーポジション

2) 好みの調整を固定しておくロックポジション

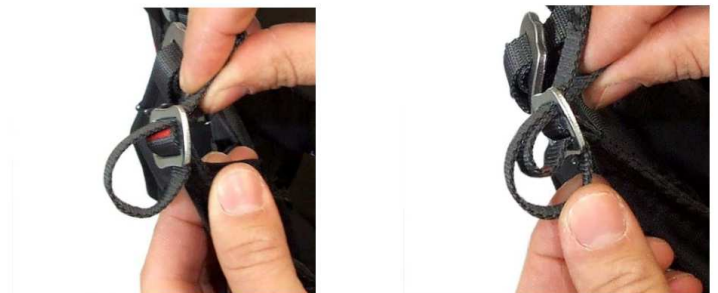
ワニ2は調整をロックして納品されます。セッティングを変更するには、まずロックからストラップをはずしてください（下記の写真を見てください）。これで上体の傾きを調整することができます。ストラップを前に引くとより立った状態になり、ライトグレーのストラップを反対の方へ引くとより後ろへ傾きます。



2. 2. 2 座板の調整



この調整は脚と背中との間の角度（座る深さ）を変化させます。こうして背中にかかる荷重と座板にかかる荷重の快適な配分をパイロットが選ぶことができます。この調整も片側2か所に分かれています。調整を変更するときは、まず下の写真のようにストラップを緩めてください。、



2. 2. 3 肩ベルトの調整

肩ベルト調整によってハーネスをパイロットの身長に合わせていきます。この調整バックルはパイロットの肩の前にあります。肩ベルトはパイロット上体の重さの一部も支え、居住性に寄与しています。パイロットの肩へのあたり方が強過ぎたり緩過ぎたりしないようにしてください。



2. 2. 4 胸ベルトの調整

胸ベルトで2つのカラビナ間の距離を調整します。調整幅はSサイズとMサイズで37.5～48cm、LサイズとXLサイズで37.5～51.5cmです。ワニ2での初飛行の際は胸ベルトを一番短めにしておく事をお勧めします。その後フライトを繰り返しながら少しずつ調整して好みのポジションを探してください。胸ストラップが短く、きついほど安定性が高くなります。カラビナ間の距離を広げ過ぎてもパラグライダーの操作性は向上しません。また、狭くし過ぎた場合、非対称つぶれからのツイスト傾向を悪化させる恐れがあります。

さらにもう1本のベルトもあり、肩ベルトの間隔を調整することができます。そしてこのベルトがあると万が一胸ベルトをつけ忘れた時にパイロットがハーネスから抜け落ちるのを防いでくれます。



2. 2. 5 脚ベルトの調整

もしシミュレーターでチェックしてみて手を使わずに離陸時のシットイングポジションへの移行ができない場合は、座板の角度をチェックしてください。（前記2. 2. 2で説明の調整）それでも解決できない場合は脚ベルトを短く調整します。これは、足ベルトの取り付けバックルにあるダブルウインドーバックルでベルトの長さを変えて行います。



2. 2. 6 スタビライザー

この小さな、しかし重要な調整によって、スピードバーを踏み込んだ時に背中に過大なねじれが生じる事を防ぎ、ハーネスを安定させる事が出来ます。その作動原理はとても簡単で、スピードバーを踏み込んだ時にこの小さなプラスチックバックルが、肩ベルトが胸ベルトの中に滑り込んでいる箇所ブロックし、ハーネス全体の剛性を高め、ハーネス全体の安定性を向上させるのです。

この調整はメーカー設定で正確に行われています。

重要：調整は必ず左右均等に行ってください。



2. 2. 7 スピードバー戻しバンド

ワニ2は、スピードバーを引き戻してくるバンジーコードを装備しています。スピードバーの左右の端へそれぞれ、ちょうど良い張り具合となるように結び付けてください。



3- ワニ2での飛行

3. 1 プレフライトチェック

安全性を最大限確保するために、プレフライトチェックは完全で漏れのない手順で、毎回フライトごとに行なってください。

確認事項：

- ・全てのバックルが正しく閉まっているか。氷や雪などの障害物が挟まっていないか。必ず氷や雪を拭ってからバックルを閉めること。
- ・緊急パラシュートのハンドルが正しい位置に止まっていてセーフティーピンがしっかりと差し込まれているか。
- ・ポケットやジッパーが閉じているか。
- ・パラグライダーがハーネスに正しく接続されているか。2個のカラビナが本来のロックシステムどおりに正しくロックされ閉じているか。
- ・スピードバーがパラグライダーに正しく取り付けられているか。



3. 2 ポケット

ワニ2には大容量の背中コンテナと2つのサイドポケットがあり、ジッパーで閉じられます。給水キャメルバッグ用コンテナは背中コンテナの中にあります。



3. 3 キャメルバッグ

ワニ2は給水キャメルバッグ装備の機構を持っています。背中コンテナの中の専用コンテナポケットにキャメルバッグを入れたら、背中コンテナの上部左側に開口している穴に給水ホースを通し、左肩ベルトのライクラ製伸縮カバーの下を通して写真で示されている専用の穴から前へ出してください。



3. 4 水上でのフライト

水上でのフライトに関して、ワニ2で特に問題となる点はありませんが、いずれにしても着水は常に危険である事に違いはありません。水上を飛ぶ可能性がある場合は、適切なライフジャケットを使用してください。

3. 5 トーイング

ワニ2はトーイングでの離陸に用いる事が出来ます。トーイングブライダルリリースは必ず、カラビナに直接かけてカラビナの開閉ゲートがリリースとは逆の後ろ側を向いているようにしてください。詳細はトーイングリリース機材に付属の説明書を読むか各人のフライトエリアにいるトーイングの資格を持ったインストラクターにお聞きください。

3. 6 ランディング

ランディングの前に座板から足をずらせて出して立ち上がり、スタンディング ポジションをとっておきます。決して座った姿勢では着陸しないで下さい。高レベルのパッシブ プロテクションとなる背中フォーム プロテクションを装備しているとは言え、これはパイロットの背骨にとってとても危険なことです。ランディング前に確実にスタンディング ポジションをとっておくことは、アクティブ セーフティーの事前準備であり、事故が発生してからの受身のパッシブ プロテクションに比べて、はるかに有効です。

4ー ハーネスの折りたたみ・パラグライダーの収納・リュックサックの使用

ハーネス形態からリュックサック形態へ変えるには、バックポケットを完全に開いて、中のリュックサック部分を広げてください。ハーネス全体を裏返して座板をハーネスの背中部分へたたみます。たたんだ座板と背中部分の間にベルト類やバックルなどを挟んでおきます。ハーネスのエアバッグ部分の上にあらかじめたたんであったパラグライダーを置きます。パラグライダーをリアポケット部分の上に置き、最後にリュックサックを閉めます。ジッパーを楽に閉じられるように、パラグライダーやエアバッグに残っている空気が出るようにバックパックを押してください。



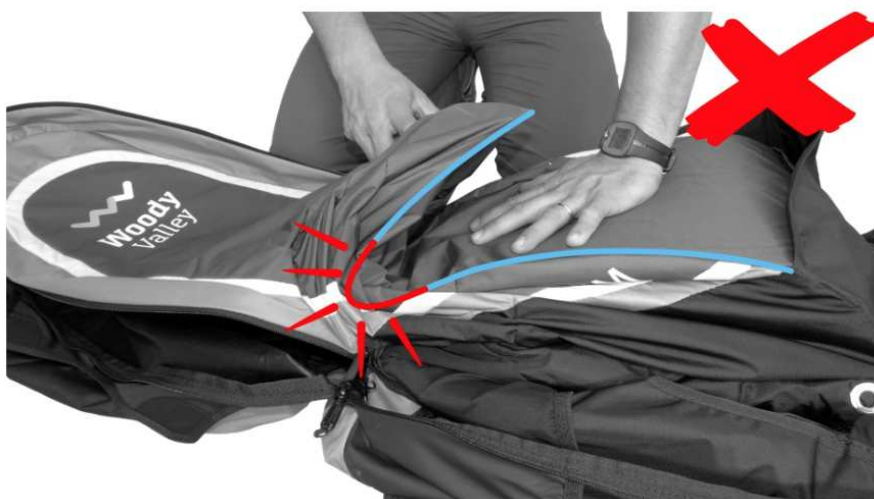
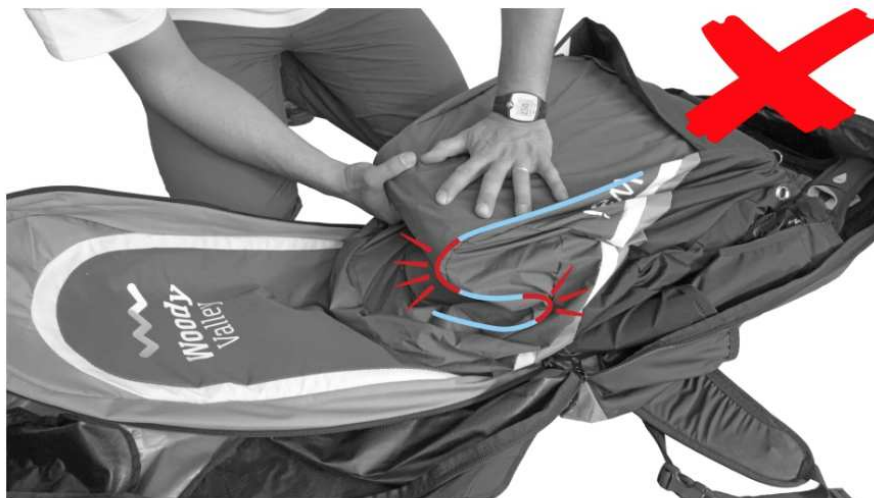
リュックサックの上部には、ヘルメットや計器類、衣類などを入れるのに十分なスペースができます。全ての装備品を収納して、全体をコンパクトにする必要がある場合は、4本あるサイドベルトを締めこみます。この作業によって中身がグラつかずに安定し、快適に運ぶことができます。

リュックサック形態での肩ベルトの上にも調整ベルトがあり、同じ目的に使えます。

飛行準備に入るには、逆の順番で作業していき、最後にハーネスのリアポケットの中にリュックサックをたたんで収納します。

注意：

レキサン樹脂でできている部品を強く折りたたまないように注意してください。折グセが付くとエアバッグ自体の形状を損ない、エアバッグが本来の性能を発揮しなくなる恐れがあります。



4. 1 ポケット

リュックサック形態では、伸縮素材ライクラ製の大きなポケットが左右にあります。左右の腰ベルトにも小さなポケットがあり、ライクラ製で、片方はジッパー付です。リュックサックの上端には名札や書類を入れておける小さくて透明なポケットがあります。トレッキングポールをリュックサックへ取り付けるための専用フックもついています。またリュックサックの上には、衣類やその他のアイテムを外付けしておく、とても便利で用途の広い調節式バンジーロープもついています。



4. 2 キャメルバッグ

ワニ2は給水キャメルバッグを装備できるように設計されていて、リュックサック形態でもハーネス形態でも使用可能です。リュックサック内にあるポケットにキャメルバッグを収納し、ホースを肩の上に開口している穴へ通したら、肩ベルトの上に伸びている調整ベルトの下を通して、肩ベルトのバンドを通します。



5ー 特徴とオプション装備の内容と取り付け

5. 1 スピードシステムの取り付けと調整

最適な着座ポジションに調整できたら、アクセレーターの調整を行ないます。このハーネスは通常タイプのスピードシステムアクセレーターなら全て装着可能です。

座板の前にはスピードバーを保持するゴムヒモがあり、緊急パラシュート開傘時に緊急パラシュートハンドルがスピードシステムに絡むのを防いでいます。スピードバーのラインはまず座板の前のゴムヒモに付いているリングの中を通し、座板の前の角の近くにある穴からハーネスの中に入り、そこから座板の後ろの角の近くにあるプーリーを通して上へ伸ばして最後に伸縮ベルトに取り付けられた小さなサイドリングの中を通しておきます。このサイドリングのおかげで、スピードシステムラインがパラグライダーのライザーから外してあるときにハーネスの中に入ってしまうことを防いでいます。

スピードバーの調整を正確に行うには、シミュレーターにぶら下がってパラグライダーのライザーを接続し、他の人にライザーを持ち上げてもらって、スピードバーのラインの長さを調整してください。足を離れたときにフットレストがハーネス前部の下10cm以内にくるようにしてください。ヒモを短くし過ぎるとスピードシステムが常に引かれた状態になり、意図しないで飛行中に常にスピードシステムが作動してしまう恐れがあります。はじめのフライトではスピードバーをやや長めにしておいてフライトごとに少しずつ短くしていくのが安全です。また、調整の際は、左右均等に行うよう注意してください。



5. 2 リラックスバー

すでに装着されているタイプ以外にも、全てのウディーバレー社製ハーネスにリラックスバーを後付け装備することが出来ます。リラックスバーがあれば、パイロットは足を伸ばした状態で足をサポートに乗せてくつろぐことが出来ます。この飛行姿勢は昔からの足を垂らしておく姿勢よりもずっと楽と思うパイロットも多いです。リラックスバーの取付けは、リラックスバー付属の取り扱い説明書をご覧ください。

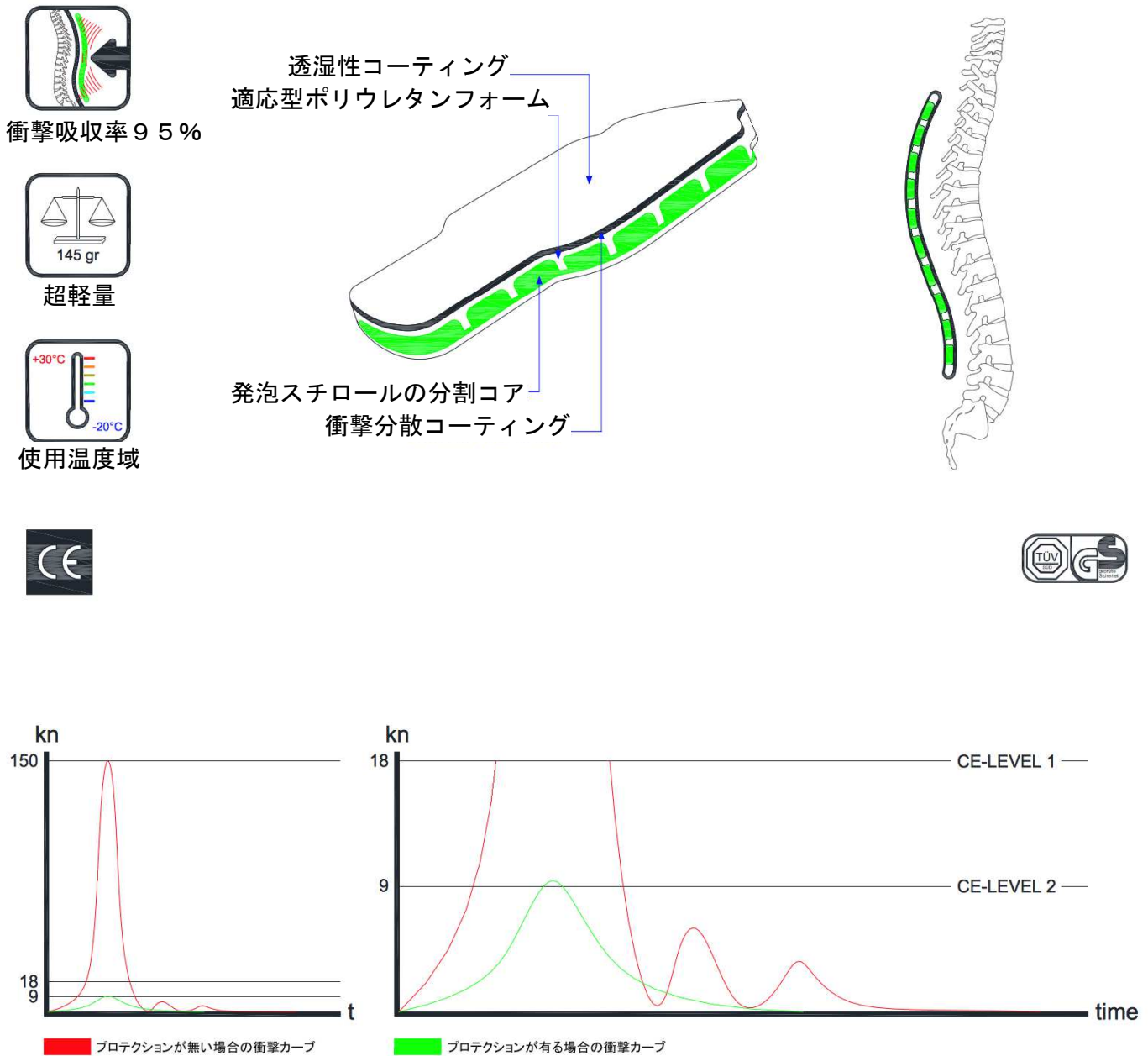
5. 3 クイックリリースカラビナ

ワニ2はクイックリリースカラビナを使用することが出来ます。正しい取り付け方については、クイックリリースカラビナ付属の使用説明書を参照してください。

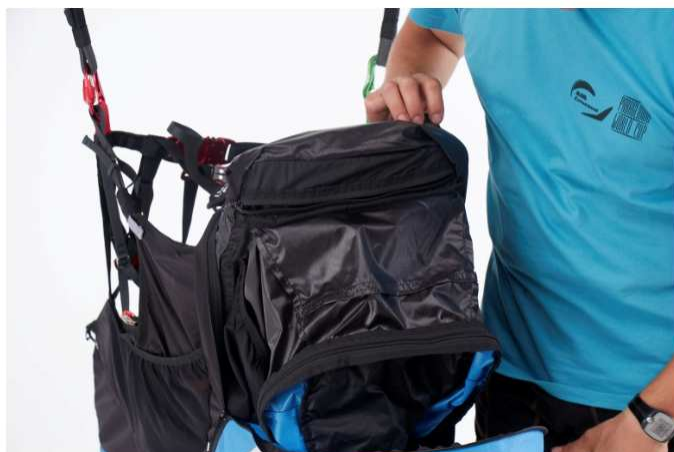


5. 4 バックプロテクション

ワニ2は、TUV（ドイツ技術検査協会）とCEの認証（レベル2）を受けた専用のバックプロテクションをリアポケット内の専用ポケットに装備することができます。



このバックプロテクションの衝撃吸収特性は、残留力わずか9.75 kNの要求基準に達しています。これは、衝撃のほぼ94%がこのバックプロテクションによって吸収されることを示しています。全ての素材とその防護性能は、89/686/EWG EU規格に基づいてTUV SUD（ドイツ技術検査協会）の認定を受け、クラス2の個人用保護具として試験の上で認証され、生産物安全性のTUV/GS規格を達成しています。



EAPR GmbH
Anlage 1 Inspektionsbericht Nr. EAPR-GZ-0266/14



Erklärung über Bauausführung und Leistung (EBL)
08.09.2014

Gleitsegel-Gurtzeug

ENTWURF

Musterprüfung

EAPR-GZ-0266/14

Gerätemuster

Wani

Musterprüfhaber

WOODY VALLEY SRL
via Vienna 92
38100 Trento
Italy

Datum der Musterprüfbestätigung	04.09.2014
Art der Prüfung	umfassend
Bezug	keiner
Nachgewiesene Normen und Verfahren	LTF 91/09, Pkt. 4., Pkt. 6., Pkt. 10. EN 1651 - IA 011, IA 012, IA 017.

Gurtzeuggruppe	GH
Zulässiges max. Startgewicht kg	120 kg
Integrierter RG-Container	ja
Innencontainer Teil des Gurtzeuges	self inflated Airbag
RG Container Volumen - ccm	3000 - 6500 ccm
Volumenreduzierung des Retterfaches	Ja - Neopren
Einhängehöhe cm	45
Einhängehöhe ändert sich mit Gurtzeuggröße	ja
Art des Dämpfungssystems	self inflated Airbag
Protektorstestwert g	18.7g (L), 22.2g (M), 18.5g (XL)
Schnallensystem	Get-Up / T-Look
Schnallenöffnung unter Last	nein
Beinstrecker	optional
Beinstreckentrennung notwendig	nein
Beinsack	nein
Wendogurtzeug	nein
Gerätgewicht	4.2 (L)

Anmerkungen	Das Gurtzeug ist in den Größen S, M und L und jeweils in den Gurtkonstellationen Standard T-Look und Get-up-System geprüft worden.
Betriebsanweisung in der Fassung vom	Vers. 1.0 - 07.2014
Nachprüffristen	24 Monate

Bad Grönenbach, 08.09.2014

Diese Erklärung wurde elektronisch erstellt und ist ohne Unterschrift gültig

ハーネスは必ず24か月ごとあるいは使用頻度が高い場合（年間150時間以上）は12か月ごとに点検してください。メーカーの点検手順に基づいて作業することのできる有資格者あるいはお買い求めになった販売店にご連絡ください。

衝撃が加わったときや着陸あるいは離陸に失敗したときは、損傷がないか目視チェックし、必ず点検してください。

カラビナ製造メーカーの基準にある通り、カラビナは購入してから飛行時間2,000時間あるいは5年に達したら交換してください。

ハーネスの不要な損耗・劣化を防ぐために、地面や石、ザラザラした場所でハーネスを引きずる事は極力避けてください。本来のフライト活動以外に紫外線（直射日光）が不必要に当たらないようにしてください。できるだけ湿気や高温からハーネスを守ってあげてください。

パラグライダー機材は全て、涼しく乾燥した場所で保管し、濡れたり湿気を含んだままでは放置しないで下さい。

ハーネスはできるだけキレイに保ち、定期的にプラスチック ブラシや絞った雑巾で土を落としてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤と水で洗い、直射日光を避けて風通しの良い場所で自然乾燥させてください。

もし緊急パラシュートが濡れた場合（着水など）は、必ずハーネスから取り出して乾燥させ、リパックしてからハーネスコンテナに収納しなおしてください。

ハーネスの修理や部品交換は、パイロットが行ってはずならず、ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家のみが作業いたします。ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家だけが、認定どおりの製品の正しい機能を保つことの出来る素材と技術を持っているのです。

ジッパーは常に清潔に保ち、定期的に乾式シリコンスプレーで潤滑を保ってください。

メンテナンス作業の要望でウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家へご連絡、発送いただく場合は、リアポケット内の銀色のラベルに記載されている識別番号を全桁、お知らせください。皆様が、ワニ2によって素晴らしいフライトを楽しまれることを願います！

6. 1 ハーネスの廃棄

パラグライダーハーネスに使用されている素材には、正しい廃棄方法が求められています。一般ゴミとして廃棄せず、地域の規則に沿った廃棄を行ってください。

6. 2 自然環境における活動への注意

スカイスポーツ活動において環境に配慮しましょう。勝手に許可されていない場所に立ち入ったり、ゴミで自然を汚したり、騒音を出したりしないよう、注意しましょう。

7ー テクニカルデータ

座板からカラビナまでの距離	S: 43 cm M: 45 cm L: 47 cm XL: 48 cm
カラビナ間の距離 (S・Mサイズ)	37.5～48 cm
カラビナ間の距離 (L・XLサイズ)	37.5～51.5 cm
ポリプロピレン製座板のサイズ (S)	33 x 30 x 34.5 cm
ポリプロピレン製座板のサイズ (M)	35 x 32 x 36.5 cm
ポリプロピレン製座板のサイズ (L)	37 x 34 x 39 cm
ポリプロピレン製座板のサイズ (XL)	38 x 34.5 x 39.5 cm
カラビナ、パラシュートハンドル含む本体重量	S: 3.82 kg M: 4.05 kg L: 4.28 kg XL: 4.42 Kg
プロテクション形式	セルフインフレーション エアバッグ
脚ベルト方式	T-Lock
緊急パラシュートコンテナ	座板の下に容量調節可能な側方開放型コンテナ
認証番号	EAPR-GZ-0266/14

この取扱説明書に記載の内容には万全の正確を期していますが、
記載内容はあくまで参考である事を御理解ください。

この取扱説明書は予告なく変更されるものです。ワニ2の最新の情報は、
ウッディーバレー社のホームページ <http://www.woodyvalley.com>
あるいは、(株)スポーツオーパカイトのホームページ <http://www.opa.co.jp>
でチェックしてください。

2017 年 10 月版

